

Web Class を利用してのライティング授業

－ 振り返りアンケートをもとに－

大 年 順 子

Teaching a writing web class based on reflective questionnaires

Junko OTOSHI

要旨

本稿は平成25年度前期の「総合英語3」(ライティング)において、Web Class を利用したライティング授業を報告するものである。Web Class は岡山大学教育開発センターIT活用教育専門委員会・e-Learning支援室が提供する基盤システムであり、本稿の実践クラスでは、おもに課題のやりとり、教員からのフィードバック、およびピアレビューなどがもちいられた。学期末に実施した振り返りアンケートからは、上級レベルの学生は「ピアレビュー」に、初級レベルの学生は「教員からのコメントフィードバック」にWeb Class の機能としての効果を認識していることがわかった。Web Class の利用は英語ライティング授業のアクティビティーの選択肢を広げることになると思われるが、学生のレベルや指導の目的を考慮したうえで、利用が求められることもあらためて確認された。

キーワード：Web Class, ライティング, フィードバック, ピアレビュー, 振り返りアンケート

1. はじめに

ライティングの授業では、「書く」というアウトプットを推進する目的から、学生に課題を課してライティングという作品を提出させることが多い。Swain (1995) は、アウトプットを促進させることで学習者は自身の言語能力を試したり修正したりして、より能力を発達させることができると論じている。

教員はライティング指導方法として、授業で使用する教科書の他に、自身で作成したモデル作文や参考資料を提示し、学生にライティングを作成させる際の参考として、または提出後の考察資料として利用している。さらに、課題のライティングに対してフィードバックを与えて返却することは、ライティング指導を行う教員の重要な責務であると、とらえられていることも多い (Ferris et al, 1997)。

一方、現実のライティング授業では、課題の管理や成績の記録などに加えて、課題ごとに受講生人数分のフィードバックを与えることに忙しい。また、授業時間内に、モデルライティングや参考資料の配布に加えて、ライティング課題のやりとりを絶えず行っている状態である。

そこで、ライティングの授業の中でWeb Class を取り入れて課題の管理とフィードバックを行えば、通常の紙媒体でのやり取りよりも、より効率的に授業運営を行うことができるのではない

かと考えた。Web Classでは、課題の管理を時系列に沿ってパソコン上で自動的に行うことができ、教員からのフィードバックも課題の特徴を考慮して焦点を絞って集中的に行うことができるのではないかと期待された。

さらに、Web Classの活用が「複数の草稿の形式」や「教員だけでなく実際の読み手や仲間からの多様なフィードバック」など、プロセスアプローチ (Grabe & Kaplan, 1996) を推進させることになるのではないかと思われた。プロセスアプローチは、最終原稿を言語的な正確性だけに重点を置いて評価するのではなく、プロセスの中で、書き手はフィードバックを参考にしながら自分のライティングを推敲・展開させていく指導法であり、ライティング授業の中でより広く認識されている (e.g., Hyland & Hyland, 2006)。本稿では、Web Classのいくつかの機能を活用して実施したライティングタスクを紹介し、あわせてコース修了時に行った学生の振り返りアンケートをみることによって、より有効なWeb Classのライティング授業への導入を提言していく。

2. Web Classについて

Web Classは岡山大学教育開発センターIT活用教育専門委員会・e-Learning支援室が提供する基盤システムである。Web Classの概要によれば、配布資料や教材の掲載、テスト・アンケートの実施、ディスカッションやメッセージ送受信など、授業活動全般を支援するサービス一式を提供するシステムである (岡山大学 Web Class /overview)。

河村 (2009) は、e-learningの利点として迅速性、効率性、そして便利性などをあげて、ネット環境のもとでは、時間や場所にかかわらずいつでも教材にアクセスできることを論じている。本稿の実践クラスでは、下記の5点の教育効率化を目指して導入することにし、後述の図1に示す流れで授業を進めていった。

- (1) 課題ライティングの成績管理
- (2) 課題ライティングのガイドラインとモデルライティングの掲載
- (3) ルーブリックをもちいたライティング評価
- (4) ピアレビュー
- (5) アンケート実施

3. 実践

3.1 参加者

平成25年度の岡山大学教養教育英語の中で、ライティング授業は必修授業である「総合英語3」として全1年生に課されている。実践クラスは執筆者が担当した「総合英語3」の2クラスである。参加者は入学時にTOEIC IPテストを受験しており、そのスコアで振り分けられた習熟度別クラス編制により、初級 (TOEICスコア400点未満)、中級 (TOEICスコア400点~595点)、上級 (TOEICスコア600点以上) の3レベルに分けられ、本稿の実践クラス参加者は上級クラス (28人) および初級クラス (26人) の学生であった。

3.1.2. 授業の概要

「総合英語3」は、『平成25年度 (2013) 教養教育科目履修の手引・授業時間表』の中で、「比較、対照、議論、物語などの様々な形式を用いて、構成の整った英文を書く演習を行います。明確で論理的な構成を用いて英文レポートを書く演習を行います」(p.32) と説明されている。ライティング授業は「総合英語5」として、2年生にも選択必修として課されているため、1年生のライ

ティングでは、各教員のシラバスの中では英語ライティングの機会を多く提供し、ライティングの流暢性を伸ばすことにより焦点が置かれている。

執筆者は前述のように「総合英語3」を上級レベルおよび初級レベルの2クラスで担当したが、テキストはどちらのクラスでも『平成25年度(2013)教養教育科目履修の手引・授業時間表』の説明を満たす *Writing Frontiers* (Kumamoto, et al, 2010) を使用した。授業はテキストに沿って進められたため、課題は全く同じタイトルのものを課したが、上級クラスでは、ライティング語数を増やしたり、ライティングの言語的・レトリック側面の正確性をより強めたりと、課題の目標設定は学習者の習熟度によって変えていった。

授業は両クラスともLL教室で実施され、授業最初の10分間はオンラインのタイピング練習サイトを利用して、タイピング練習を行わせた。その後15章からなるテキストに従い、講義形式で授業が進められたが、毎時間個人によるライティング演習ならびにペアワークなどを取り入れ、学生が能動的に授業に取り組めるようなアクティビティーを30分間は行うようにした。授業は15回実施し、16回目は試験を行わず休講としたが最終課題は16週目にWeb Classに提出させた。下記の図1に示しているように、両クラスとも8つのタスクを教科書のパラグラフおよびエッセイライティングの形式に沿って教員のタイトルの指示のもとに課していった。タイトルは教員が決めるものの、書く内容については各自の関心や目的にもとづいて選択を与え、より自主的に書く態度を促進させるよう努めた。下記図1がWeb Classを利用したタスクスケジュールの概略である。

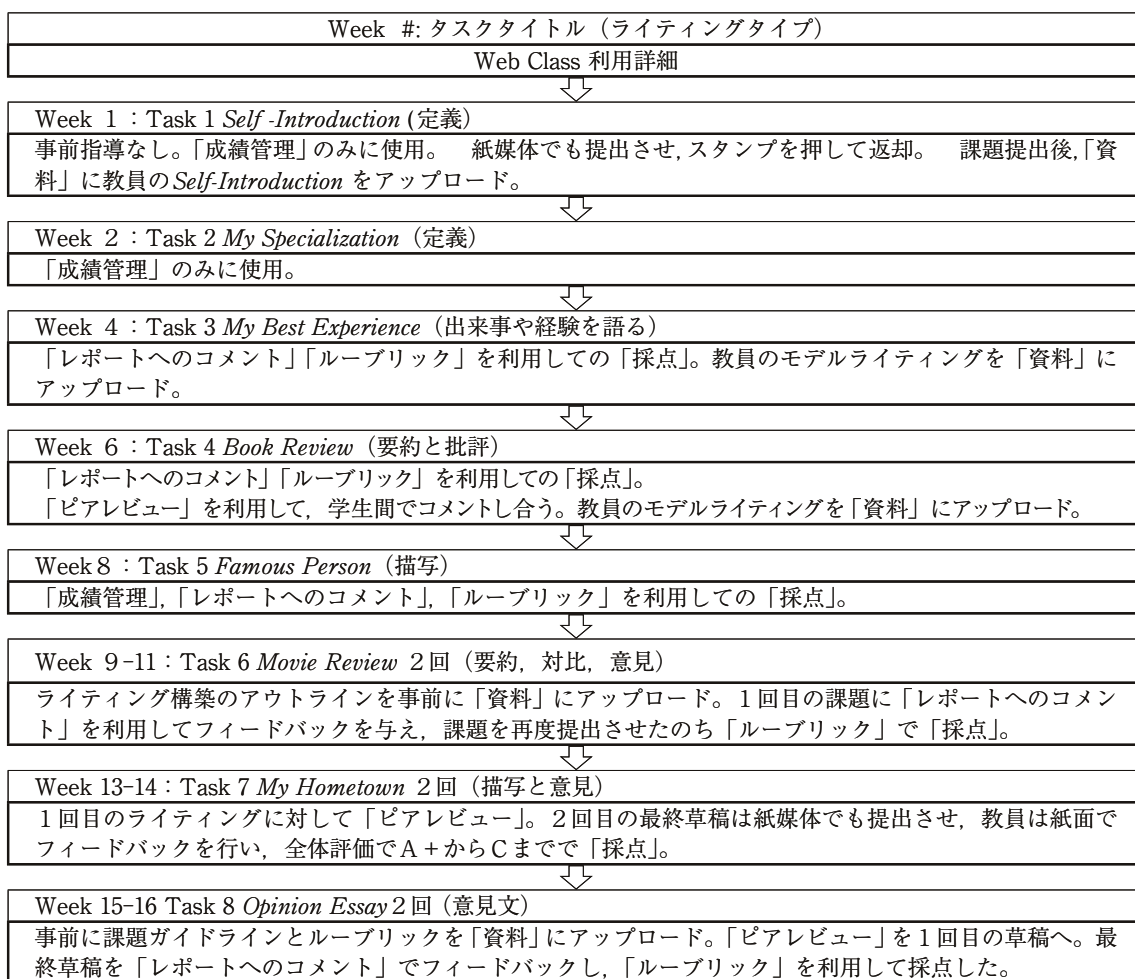


図1. Web Class を利用したタスクスケジュールの概略

タスクは流暢性を高めるために書きやすい内容の*Self-Introduction*から論理的で批判的な思考力が必要となる*Opinion Essay*まで教科書の章に沿って8つ課した。各タスクすべて、課題を提出後、教員が自身で作成したライティングをモデルとして「資料」に提示し、翌週の授業で、教員のモデルライティングを見せながら、当該タスクライティングの総評を行った。

第1, 2週のタスク1とタスク2は授業中の30分間を使って完成させて、各自のパソコンからWeb Classのタスクの「レポート提出」で提出させた。学生はすでに、入学時のオリエンテーションなどでWeb Classの使い方を学んでいるが、本稿の実践クラスの最初の2週であらためてWeb Classを教員のパソコンから資料提示モニターに映して課題の提出の仕方、教員の成績管理などを説明した(付録1参照)。最初の2つの課題は、受講学生の現在のライティング力やバックグラウンドを教員が知るための、ある種の診断テスト的な役割として課したため、採点やフィードバックは行わず、翌週にクラス内で総評を行うに留めた。なお、タスク1の*Self-Introduction*は紙媒体でも提出させ、教員が“Good Work!”のスタンプを押して返却した。

タスク4からタスク8までは、授業内で学生に評価基準について事前に説明し、「教材実行時の制限」を行い、各タスク提出の締め切りを設定して「成績管理」を行った。さらに、Web Classの機能を使ってフィードバックや「採点」を行った。例えば、「成績管理」の「レポート/記述式の採点」のコメント欄を使用して課題にフィードバックコメントを与えたり、ループリックを使用した分析評価で採点を行ったりした(付録2参照)。

なおタスク4では、「テストアンケート作成/編集/削除」画面の中の、「他のコースメンバーへ回答を公開する」で「ピアレビュー」を選択し、1人3点のピアレビューを設定した。フィードバックの内容については、教員が作成したループリックの項目にもとづいて、具体的に指摘するようにと事前に指導した。また、学生間で交わされたフィードバックは管理者画面で確認することができた。

タスク6からタスク8はライティングがパラグラフからエッセイへと推移していき、コース修了に向けて自分の意見を論理的に展開させるライティングへと指導の重点が移っていった。到達目標に焦点を当てたループリックをもとに、教員とピアからのフィードバックを参考にして、プロセスの中での評価を指導に活用した。なお、タスク7の*My Hometown*のエッセイライティングは紙媒体でも提出させ、執筆者である実践クラスの教員はそのライティングの中に赤ペンでフィードバックを行い、のちに振り返りアンケートで、Web Classでのフィードバックと比較させた。

4. 学生への振り返りアンケート調査

4.1. アンケート集計結果と考察

最終授業である15回目の授業終了時に出席学生を対象にWeb Classの「アンケート作成」を利用して両方の実践クラスにおいて下記の設問1～5を作成し、Web Classアンケートを実施した。

- 設問1 Web Classを利用しての課題の提出はどうか(単数選択式)
- 設問2 Web Classを利用して便利だと思った機能は何ですか(複数選択式)
- 設問3 Web Classを通しての先生のフィードバックと紙媒体による先生のフィードバックでは、どちらが良いと思われましたか(単数選択式)
- 設問4 Web Classを通してのフィードバックの方が良いと思う点があれば、具体的に理由をあげてください(記述式)
- 設問5 自分のライティングに直接赤でフィードバックしてもらった方が良いと思う点があれば、

具体的に理由をあげてください (記述式)

結果は Web Class の「アンケート集計」で即座に画面上に表示された。設問 1 ～ 3 は度数が棒グラフとなって表示され、設問 4 と設問 5 の自由記述回答については、すべての記述コメントが表示された。なお、本稿での結果報告は、口頭で修正を求めた学生の人数を基にして、図 2 ～ 7 で示している。

設問 1 Web Class を利用しての課題提出はどうでしたか

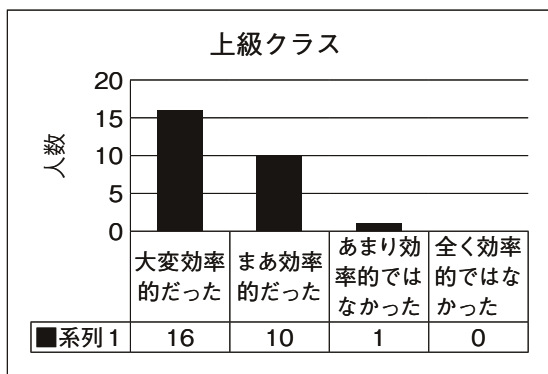


図 2. 設問 1 結果 (上級クラス)

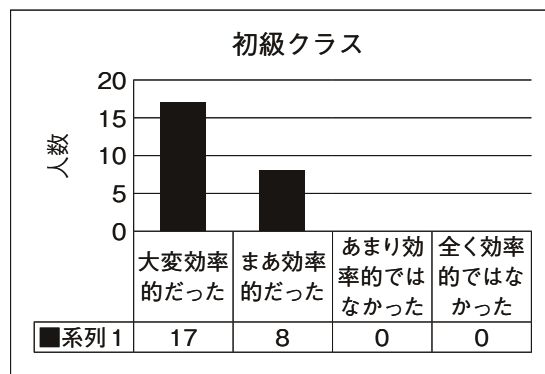


図 3. 設問 1 結果 (初級クラス)

上記の図 2 および 3 からわかるように、Web Class を利用しての課題提出について、ほぼ全員の学生が肯定的に Web Class を利用しての課題提出をうけとめていたことがわかる。

設問 2 Web Class を利用して便利だと思った機能は何ですか

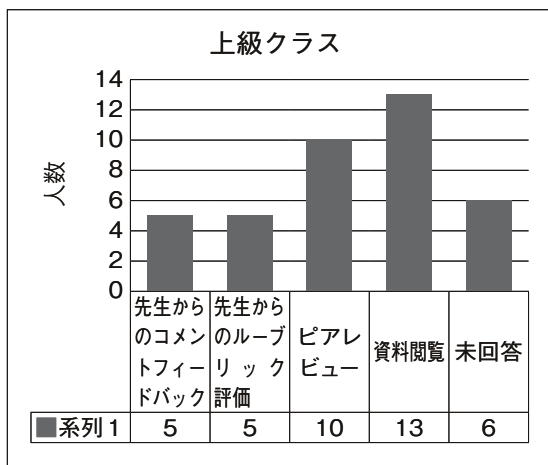


図 4. 設問 2 結果 (上級クラス)

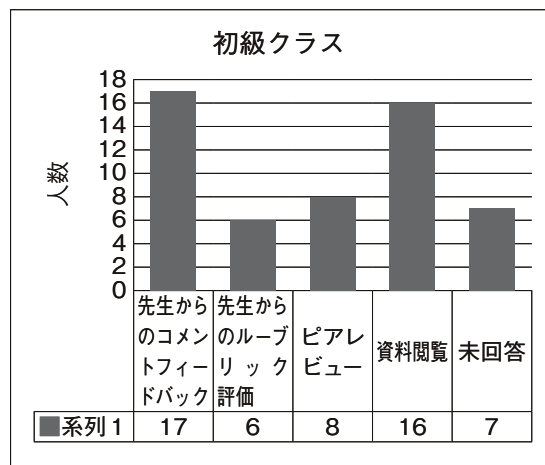


図 5. 設問 2 結果 (初級クラス)

(注) : 複数回答可

設問 2 は、本稿の実践クラスで利用した「先生からのコメントフィードバック」、「先生からのループリック評価」、「ピアレビュー」および「資料閲覧」の中で、何が便利であったかを複数回答可として質問したものである。図 4、5 からわかるように、英語習熟度にかかわらず、教員の課題モデルライティングやガイドラインなどの「資料閲覧」を便利だと思った学生が多い。両ク

ラスの違いとして気づくことは、上級クラスでは、「先生からのコメントフィードバック」を便利だと回答した学生が5人であったのに対して、初級クラスでは受講生の大半の17人が「先生からのコメントフィードバック」を便利だと選んでいた。なお、「ピアレビュー」は上級英語では10人、初級クラスでは、8人の学生が選択しており、便利な機能であるにとらえていたことがわかる。

設問3 Web Classによる先生のフィードバックと自分のライティングに直接赤でフィードバックしてもらうのでは、どちらが良いと思いませんか

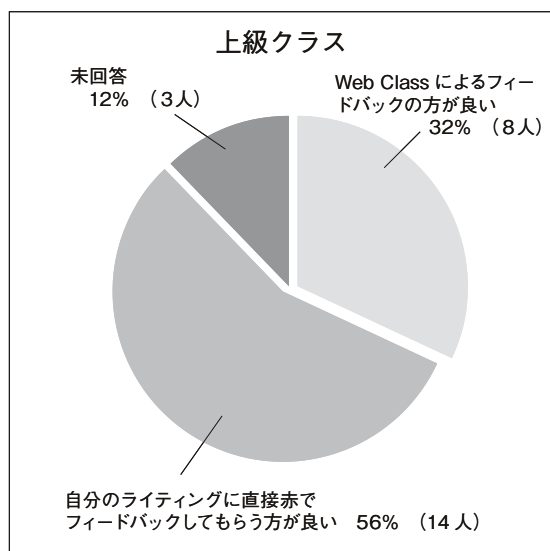


図6. 設問3結果 (上級クラス)

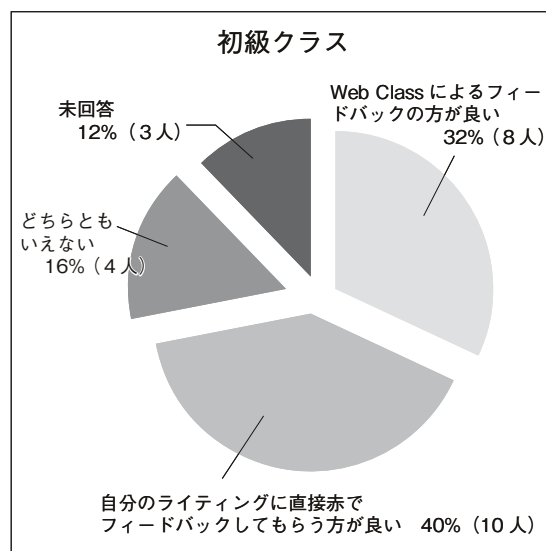


図7. 設問3結果 (初級クラス)

本稿の実践クラスでは、タスク1とタスク7のみWeb Classだけでなく紙媒体でも提出させ、タスク1は、「Good Work!」,「Super Job!」などのスタンプのみを押して返却し、タスク7ではスタンプの他に、学生のライティングテキスト内に赤で文法や内容面の修正を行ったり、テキストの下方の余白に、Web Classのコメント欄で行う、文法・内容面のフィードバックを手書きで行ったりした。学生には、実践クラスでの体験をもとに、Web Classと紙媒体のフィードバックを比較するように口頭で指示した。その結果、上級クラスでは、56%の学生が「自分のライティングに直接赤でフィードバックしてもらう方が良い」と回答したのに対して、「Web Classによるフィードバックの方が良い」と回答した学生は全体の32%であった。一方、初級クラスでは、32%が「Web Classによるフィードバックの方が良い」と回答し、「自分のライティングに直接赤でフィードバックしてもらう方が良い」の40%と差がさほど大きくなかった。

設問4, 5では自由記述として「Web Class フィードバックの利点」および「自分のライティングに直接赤でフィードバックしてもらう利点」について、具体的に自由記述として列挙させた。まず、「Web Class フィードバックの利点」として、上級クラスでは、13人、初級クラスでは14人がコメントを記述している。どちらのクラスでも、「便利」、「紙の節約」、および「紙をやりとりする時間が節約できる」などのe-learningの利便性や資源の節約など、物理的な価値をあげていた。

一方、上級クラスと初級クラスでは、指摘している利点がやや異なっている箇所も見受けられた。上級クラスでは、「簡単にクラスのメンバーとピアレビューできる」、「たくさんのクラスメートや先生から自分のエッセイを評価してもらえることで自分のライティングスキルを伸ばすこと

ができる」など、クラスメートからのフィードバックを受け取る利点について言及しているコメントが4件あった。一方、初級クラスにおいては、「先生のコメントがどこでも確認できる」と教員からのフィードバックについて言及しているコメントは2点あるものの、ピアレビューというキーワードを使って利点をあげる記述は認められなかった。設問2でWeb Classの利点として上級クラスでは、10人がピアレビューをあげていることから、その利点が具体的に設問4で記述されていることがうかがわれる。

設問5の「自分のライティングに直接赤でフィードバックしてもらおう利点」としては、上級クラスでは26、初級クラスでは、18と、上級クラスでは圧倒的に「Web Classの利点」よりもコメントを多く残している。まず、両クラスに共通する利点としては、多くの学生が「紙に直接フィードバックしてもらえの方が文法や単語などを添削してもらえ」という点であった。上級クラスにおいては、直接赤でのフィードバックの利点を文法や語彙などの添削と関連付けて記述しているコメントは26人中18人（約70%）でみられた。一方、初級クラスにおいては、18人中8人（44%）がコメントをしていた。Web Classのコメント機能でも教科書の章で取り上げられた「時制の制御」などに焦点を当てた文法に対するフィードバックを選択し行っていたが、やはり大半の学生は紙媒体へのフィードバックの最も大きな利点は、文法を中心とする言語面での“添削”を期待していたことが認められた。

他の利点に関しては、上級クラスでも初級クラスでもコメントの内容の違いはみられなかった。上述のフィードバック内容に関するコメントの他に、紙媒体による課題のやりとりそのものに関する記述がいくつかみられた。例えば、「直接課題を返却してもらえすることで、課題を完成できたのだと安心できる。パソコンで提出するのは、提出できているのかどうかなんとなく不安だった」、 「Web Classにフィードバックしてもらっても、それを見ない人もいると思う」というような、Web Classの利便性に対する不安や注意の欠如を指摘するコメントがあった。また、「紙の方がより温かみがあり、融通が利くような気がする」といった、紙という媒体に対する情意的なコメントもあった。

一方で、設問5の記述コメントの中では、「Webでフィードバックの見方がわかりづらかった。紙のほうが、自分でも書き込めるし、家でその用紙も保存できる。Webでも、自分のWord文章に先生が直接書き込んでくれたものをWebにアップして欲しい」など、教員に対して媒体は何であろうと、フィードバックの内容やフィードバックの仕方に工夫を求めるようなコメントもあり、今後の指導の改善点として考えなくてはならないことがみつかった。

5. 今後の課題とまとめ

本稿は平成25年度前期に執筆者が担当した「総合英語3」（ライティング）の上級クラスおよび初級クラスでWeb Classを利用した授業についての実践報告である。「e-learningの利便性と迅速性」に注目して、プロセスアプローチによる指導を促進させることを目的としてWeb Classを導入した。受講生の振り返りアンケートの結果から、e-learningの利便性と迅速性はある程度確認できたものの、一部の学生にはWeb Classでの課題提出など技術的な面に不安があることが認められたため、初期の授業では、課題の提出の仕方や教員からのフィードバックの見方など、Web Classの機能を十分に説明してからサンプルなどを用いてデモレクソンを行うべきだと改善点が推察された。

また、特に上級レベルクラスでは、ピアレビューのように教員以外からのフィードバックを肯定的にとらえていることがわかった。初級レベルクラスでもピアレビューに関して、好意的にと

らえられていることがわかれたが、英語力がまだ発展途上にある学習者に関しては、教員からの言語側面のフィードバックを紙媒体などで集中的に与えてから、Web Class を利用してのピアレビューを行わせるなど、アクティビティーの順序なども学習者の習熟度によって変えていく必要があると思われた。

さらに、教員からのフィードバックという概念を今一度学生に明確に説明する必要があると思われた。特に本稿の実践報告の上級クラスでは、TOEIC IP スコア800点以上の留学生を含めた英語力の高い学生が数人受講していたため、さらなる英語ライティングの正確性を求めて、「直接自分のライティングに赤で文法を直してほしい」というコメントが数多くみられたのかもしれない。今回の実践クラスでは、学生からのワードファイルの原稿にコメント機能や下方の余白を利用して直接フィードバックを行わなかった。しかし、ワードファイルテキストを利用して紙媒体の中で直接行ったようなフィードバックを与えるにしても、教員のフィードバックは文法や語彙を直したりする、いわゆる“添削”だけではないことを明確に説明するべきだと思われた。

ライティングを構築する技術は大変複雑でCumming (1989) が主張するように「言語能力」だけではなく、構成力や分析力といったレトリック側面をつくる「ライティング構築力」も大きな要素となっている。教員のフィードバックは大きくその2つの能力の成長を促すことを目的としていると、明確に伝えるべきであると考えられた。教員からのフィードバックを出来るだけ意識的かつ能動的に確認するために、課題ごとに回顧的な学習記録を作成するよう指導し、コースの終わりにWeb Class を通して提出させれば、学生自身も自分がどのように教員からのフィードバックを評価も含めて受け取り、次の課題に対処していったのか、そのプロセスを確認できるのではないかと推測される。

最後に、Neilson (2011) が述べているように、学習者が自主的に学習を行うには、教員の教授法やアクティビティーの内容が大切であり、e-learning の利便性だけに頼ることはできない。本稿の実践クラスでも設問5の自由記述の中で「Web Class でも紙のフィードバックでも変わらない」とコメントした学生がいたように、Web Class や紙媒体は指導のツールとして、教授法の選択肢を広げることにはつながるが、指導の目的をまず教員自身がはっきりと確認し、教授法の質を高めていかななくてはならない。

参考文献

- Cumming, A. (1989). Writing Expertise and Second-Language Proficiency. *Language Learning*, 39, 81-135.
- Ferris, D., Pezone, S., Tade, C., & Tinti, S. (1997). Teacher commentary on student writing: Descriptions and implications. *Journal of Second Language Writing*, 6, 155-182.
- Grabe, W., & Kaplan, R.B. (1996). *Theory and practice of writing*. London and New York: Longman.
- Hyland, K., & Hyland, F. (2006). Contexts and issues in feedback on L2 writing: An introduction. In K. Hyland & F. Hyland (Eds.), *Feedback in Second Language Writing* (pp. 1-19). New York: Cambridge University Press.
- 河村一樹 (2009). 『e-Learning入門』 岡山：大学教育出版.
- Kumamoto, T., Oi, K., Kamimura, T., Sano, K., & Matsumono, K. (2010). *Writing Frontiers*. Tokyo: Kinseido Publishing Co., Ltd.
- Nielson, K.B. (2011). Self-study with language learning software in the workplace: what

happens? *Language Learning & Technology*, 15. Retrieved from

http://llt.msu.edu/issues/october2011/nielson.pdf

岡山大学 Web Class/overview. Retrieved from

http://olms1.el.okayama-u.ac.jp/elearn/wiki/index.php?Web Class%2Foverview#17a7b959

岡山大学『平成25年度(2013) 教養教育科目 履修の手引・授業時間割表』

Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B.

Seidlhofer (Eds.), *Principle and practice in applied linguistics: Studies in honour of H.G.*

Widdowson (pp. 125-144). Oxford, UK: Oxford University Press.

付録1. 教員管理画面

このページの先頭へ

新規作成 編集削除 表示設定

Task 1 self-introduction 大卒 隼子 2013-05-14 13:55:16 編集 学習履歴[100]

Task 2 introduce my department 大卒 隼子 2013-05-15 11:23:46 編集 学習履歴[39]

Task 3 Book Review 大卒 隼子 2013-05-22 10:34:39 編集 学習履歴[36]

付録2. 教員によるフィードバックとルーブリックによる分析評価

レポートへのコメントを入力できます。

XX-kun,
 Perfect! Great balance between descriptions and
 opinions. You did a good job!
 Junko Otoshi

	1. S	2. A	3. B
Format	<input checked="" type="radio"/> Excellent	<input type="radio"/> Good	<input type="radio"/> Needs work
Descriptions	<input checked="" type="radio"/> Excellent	<input type="radio"/> Good	<input type="radio"/> Needs work
Opinions	<input checked="" type="radio"/> Excellent	<input type="radio"/> Good	<input type="radio"/> Needs work

